

「軀の浦学の構築」

人間文化学部 メディア・映像学科
中嶋健明

2021年5月6日

■研究のスタート

●2015年福山大学人間文化学部メディア・映像学科教授に着任

2015年専任教授として福山大学に着任、鞆の浦に対する情熱が着任の動機となっていた。

運よく着任早々ブランディング研究に関わることになった。

●2017年ブランディング研究事業の募集

●研究の目的

広島県福山市鞆の浦は、瀬戸内海ほぼ中央に面し、東西からの潮の満ち引きが交わる地点であることから潮流を利用した海運の要衝「潮待ちの港」として古くから栄えた。759年編纂の万葉集には鞆を詠んだ歌が八首残されている。江戸時代の遺構である「常夜灯」「波止場」「雁木」「焚場（たでば）」「船番所」の歴史的港湾遺産の5点が現存するのは鞆の浦が唯一とされている。

「鞆の浦」には、架橋問題が起こる以前から立命館大学政策科学部、日本大学理工学部都市環境計画研究室、東京大学大学院都市デザイン研究室など多くの大学が調査に入っている。近隣の大学では、広島大学大学院文学研究科三浦正幸教授（日本建築史）は1千棟以上ある町家や商家のうち200棟あまりの構造を調査している。

これまで本格的な調査研究を行ってこなかった福山大学が、複数の学部を持つ総合大学として地元の強みを生かし、鞆の浦の文化的・歴史的・科学的資産について調査研究し「鞆の浦」のことなら福山大学に聞けと言わしめ、大学のブランド力を一気に高めようとする。また、この調査研究の成果の一部を生かし、地域住民と協力して「鞆の浦ブランド」の新商品の開発などにつなげ、起業者を育成し少子高齢化の進む地域の活性化に寄与する。

①「鞆の浦学」の構築

「地域学」としての「鞆の浦学」を構築し、研究者として愛情を持って郷土の洞察を深め、地域の住民との交流を軸に調査研究を進め、各学科が協力して担当するオムニバス形式の授業を組み立てる。地域住民を非常勤講師として雇用するなどして立体的に組み立て、他の大学では決して真似

出来ない魅力的な授業を展開し、その都度マスメディアにリリースし受験生確保にもつなげてゆく。

②「研究拠点」の整備

映画やテレビ番組などで近年盛んに取り上げられ、活気付いているように思われがちだが、高齢化が進み、老朽化してゆく町並は確実に衰えている。古くからの生活や文化を知る聞き取り調査に重要な証言者も確実に減少してゆく。建築物や証言者が失われてしまう前に、福山大学の研究拠点「鞆の浦研究センター(仮称)」を早急に整備する。この滞在型拠点の最大の特徴は、シェアハウスの借り上げによる拠点の確保であり、買い上げ等による資産の固定化ではない。メディア・映像学科の安田准教授を中心に進めてきている「鞆の浦 de ART」において今年度は現地の民家に宿泊して制作した(来年度前期5週間、週に2回程度、来年度は20数人で利用)。また映像制作において今年度鞆の浦を舞台に「サクッとムービー」の受講生や学生たちで短編映画を作成した。何度も鞆の浦を訪れ祭りの様子などを撮影したが(ロケハン・ロケーション撮影でトータル8回10数人。後期も同様に行う予定)、機材の置き場所や着替えなど苦慮した(来年度、年間20回程度)。この様子は中国新聞やNHKのBSプレミアムで取り上げられている。これまで続けてきた3DCG制作(後期5週、週に2回程度)や映像制作の授業(後期5週間、週に2回程度)や、調査研究(長期休暇中5週間、週に2回程度)、地域住民との交流会や見学会(年に数回)等、活用が期待出来る。

さらに、平成29年度の研究メンバー以外の人間文化学部教員の、あるいは、他学部の教員が里山里海プロジェクト研究の推進のために、調査・研究や地域住民とのミーティングをする拠点としても利用することが可能である。その他、来年度予定している人間文化学部の台湾の淡江大学との交換研修プログラム、今年度実施したさくらサイエンスプログラムでの鞆の浦歴史散策のような外国からのゲストを迎える拠点としても利用可能であり、歴史的に海外との交易の場所としても発展した鞆の浦に時代を超えて同じ価値を与えることができる。これらのことは、全学の里山里海プロジェクト研究が目指す、グローバル化や観光インバウンドへの広がりをもたらすことも期待できる。

■ブランディング研究事業報告

時間軸に沿って報告する。

■2019年度

●2018年（プロジェクトフォローシートから）

「地域学」としての「鞆の浦学」を構築し、研究者として愛情を持って郷土の洞察を深め、地域の住民との交流を軸に調査研究を進め、学部内各学科が協力してオムニバス形式の授業を組み立てる。地域住民を非常勤講師として雇用するなどして立体的に組み立て、学生が鞆の浦を含めた備後地域に愛着を持てるようにする。

「鞆の浦」の地理・歴史・文化をフィールドワークによりサーベイや掘り起こしに取り組み、人間文化学部3学科の学生トライアングルチームの結成を促し、「鞆の浦学構築」の地盤作りを進めて行く。また、人間文化学部3学科の複数の教員・学生が参加することから、滞在型の研究拠点の整備としてシェアハウスを一時的借り上げて利用する。

昨年度、高画質テクスチャー撮影機材によって、建築物のファサード（立面）データが作成することが可能となった。今年度は、建物等の背景となる中景・遠景の撮影を作成する。具体的には、1軒1軒を正確に再現する必要は無く、地図データから建築物の区分けを設定することにより建築物を自動作成するソフトを用いて、その時代にふさわしい遠景をオートマチックに作成する。

また、「鞆の浦」の地域の人々を先生として、大学生による新聞・テレビ取材チームをつくり、鞆の浦の「文化的価値」「人間の魅力」「住民意識」「観光資源開発」「未来への希望」等を取材し、教育用教材としての地域教科書に新聞形式・ビデオ形式でまとめさせる。そのための交流場所としてシェアハウスを借り上げる。シェアハウスは3DCG等の制作の拠点にもなり、例年参加している「鞆の浦 deアート」にも作品を出品する。

当初の計画に加えて、地域遺産としての建築物のCG化においては、佐藤圭一教授の申請課題「「地域遺産」の理念構築とその保全・継承に関する研究」と連携を取って実施する。

地域の研究拠点として、鞆の浦文化遺産の集まる雁木近くの住居2階部分を借り上げた。「鞆の浦学」構築に向けた地域住民との交流を積極的に進めている。具体的には、毎年9月に行われる秋祭りのイベントへの参加を実現させた。7年ごとに担当地区を交代して実施するこの祭り、今年は寺町・鍛冶屋町が担当エリアで、沼名前（ぬなくま）神社のすぐ近く。その地域の住民からの要望で映像を上映する事となった。ふさわしい環境を探し顕政寺の本堂の白壁を使って上映した。

また、雁木へのアプローチの両側に建つ太田家住宅（右側は本宅の酒蔵跡、左側は朝宗亭）の主人である高田様（太田家御長女）と10月18日に面会をし、雁木周辺一帯の3DCG化への理解を求めると同時に完成予想の映像をプレゼンテーションした。

鞆の浦の3DCG化には多くの人と作業時間が必要なのだが、その確保は難しく、やや計画は遅れているが引き続きシェアハウスを拠点として事業を進めていく。

工学部建築工学科の佐藤教授の「地域遺産」研究と連携して、今年度は対潮楼すぐ下の古民家の持ち主からリフォームへの参加の依頼を受け、建築学科の学生数人で計画を練っている。佐藤教授との連携を進め3DCG化への協力も求めてゆく。

鞆の浦の住民との交流は着実に進んでいる。

9月に行われた秋祭りにおいては、地域住民との交流から「顕政寺」境内での映像上映などが実施された。またメディア・映像学科のゼミ学生が参加して秋祭りのVR360度映像を撮影し、デジタルアーカイブとして記録することが出来た。雁木周辺の住民との交流は更に深まり、「太田家住宅」及び「朝宗亭」の主人の高田様とも直接面会して、3DCG化への理解が得られた。

アートプロジェクト「鞆の浦deアート」においてはメディア・映像学科の学生による作品展示が実施された。

また建築工学佐藤教授との連携も進み、建築工学ゼミ生と共に古民家の再生プロジェクトが進行中だ。

これらの成果は研究拠点の整備と直接的に関連していて、次年度に向けて、地域住民からプロジェクションマッピングなどの要望も沸き起こっている状況だ。

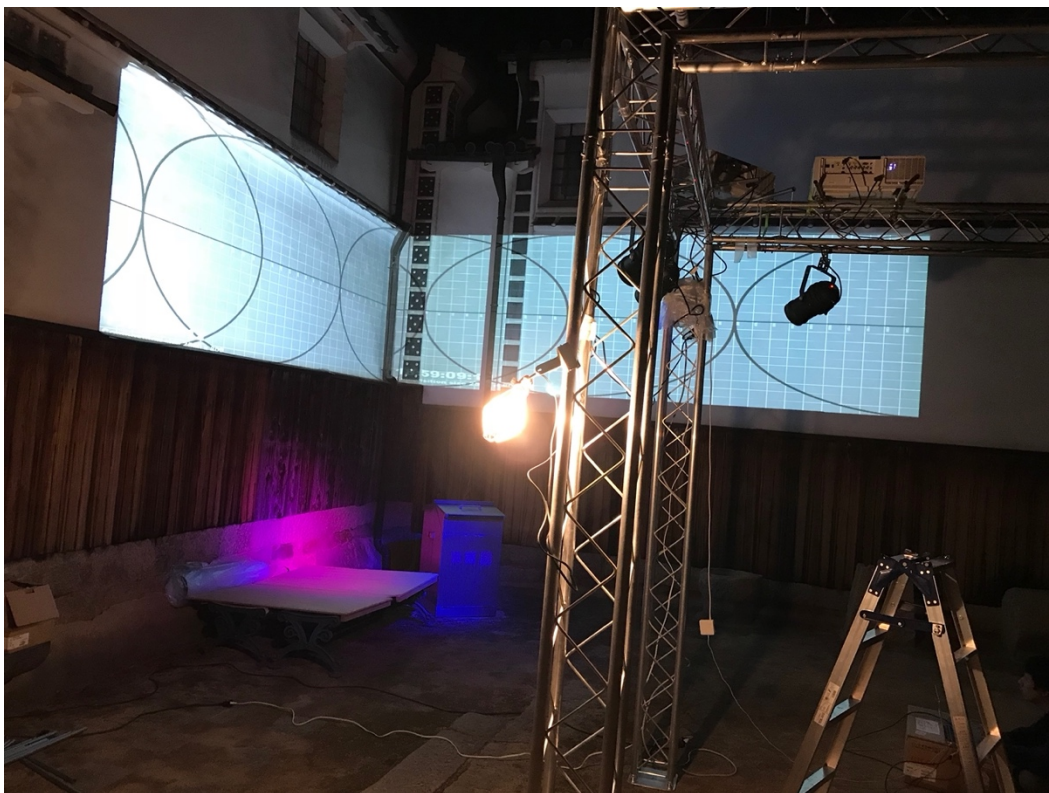
- ①研究拠点の整備
- ②秋祭りにおける顕政寺境内における映像上映会
- ③デジタルアーカイブとしての秋祭りVR映像の撮影
- ④雁木周辺住民との交流の深化
- ⑤「鞆の浦deアート」の実施
- ⑥建築工学佐藤教授との連携による鞆の浦での古民家再生プロジェクトの実施
- ⑦プロジェクションマッピング等の要望が寄せられた
- ⑧澤村船具店及び深津屋及びその周辺の3DCG化が進行中
などの成果が上がっている

■2018年度調査の記録と成果

●2018年3月3日

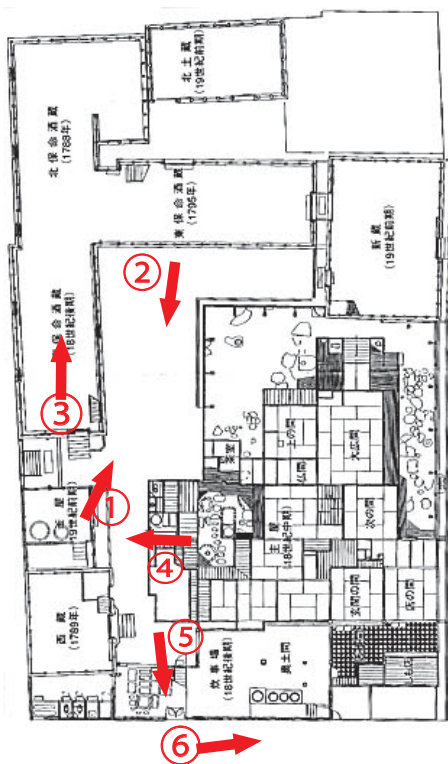
鞆の浦 雛祭りにおける 太田家住宅 中庭コンサート











① プロジェクター設置場所から



④ プロジェクター設置場所を外から



② スクリーンの白壁から



⑤ 搬入口外から



③ 蔵の奥から



⑥ 搬入口から外を

ひな祭りイベントプラン

鞆の浦雁木周辺で地域おこしなど積極的に行なっている岡本純夫氏（鞆酒造代表）から、管理している「大田家住宅」を使って、ひな祭りにイベントを行いたいと相談があり、VRなどで共同研究を行なっているヴィジュアルズ代表の高尾雅史氏に相談し、プロジェクションマッピングとクラシックコンサートのコラボ実施のプランを練った。

3月3日には知人の松岡美奈子（ソプラノシンガー）を呼んで野外コンサートを行った。プロジェクションマッピング背景のCGは当時中嶋ゼミの壇上君の作品。

●2018年5月4日

備後安国寺（国宝）近くで宿泊施設の調査：雁木からは相当離れている事もあり断念した。住居の状態は大変良かった。















●2018 年 6 月 10 日

福山城周辺で行われた築城 400 年記念事業「石引」および「石割」映像取材







●2018 年 7 月 3 日

鞆の浦 沼名前神社、阿彌陀寺、医王寺など写真取材















鞆の浦湾が一望出来る医王寺境内





●2018 年 7 月 8 日

鞆の浦 阿伏兔観音/磐台寺 写真取材







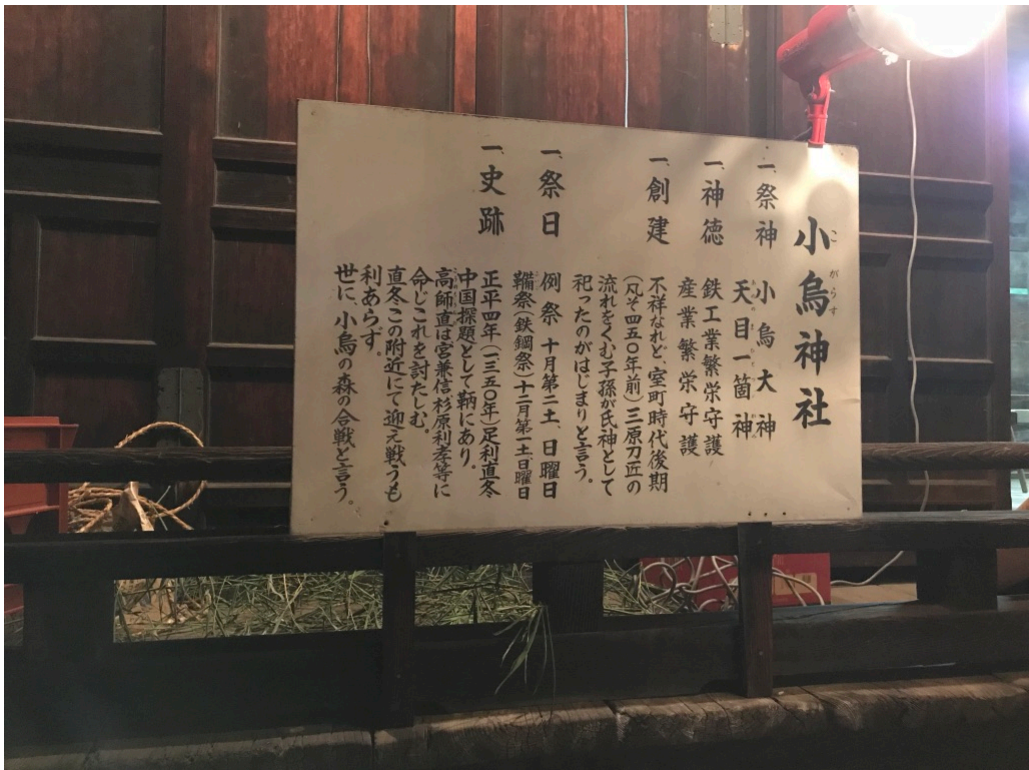




●2018 年 9 月 15, 16 日

沼名前神社周辺の秋祭り映像取材/顕政寺映像上映









この祭りの特徴は担当地域以外の人を招き入れるためのオーナメントの展示だ





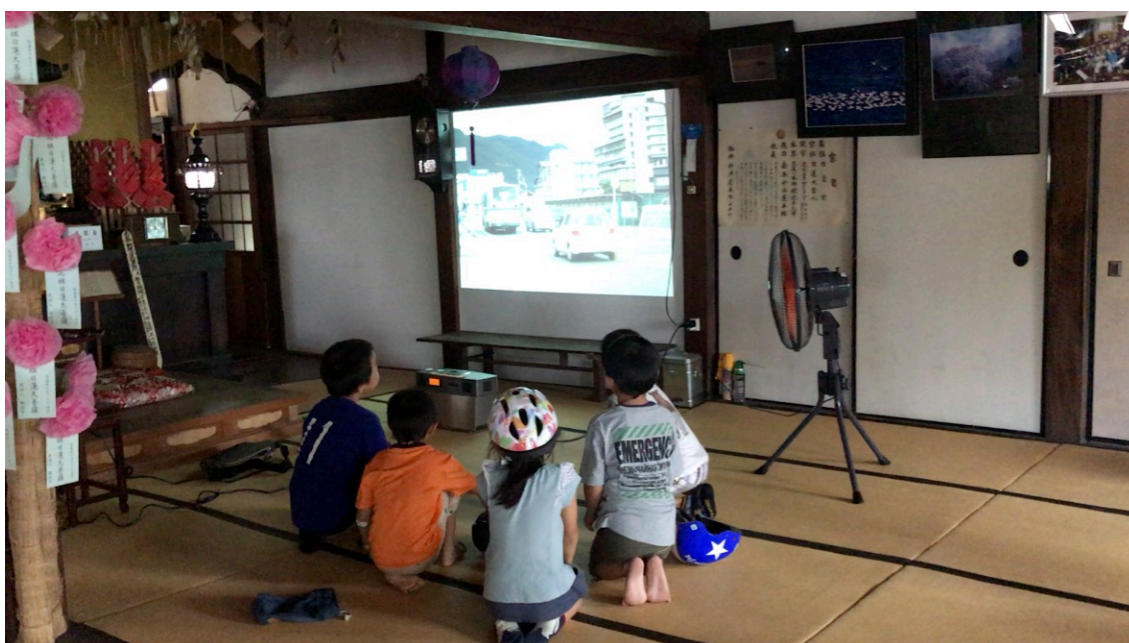
座布団が乗ったようなチョウサイの山車



鈴木理事長の甥の鈴木省我（副住職）に許しを得て本堂内で映像上映会



近所の子供達が集まった

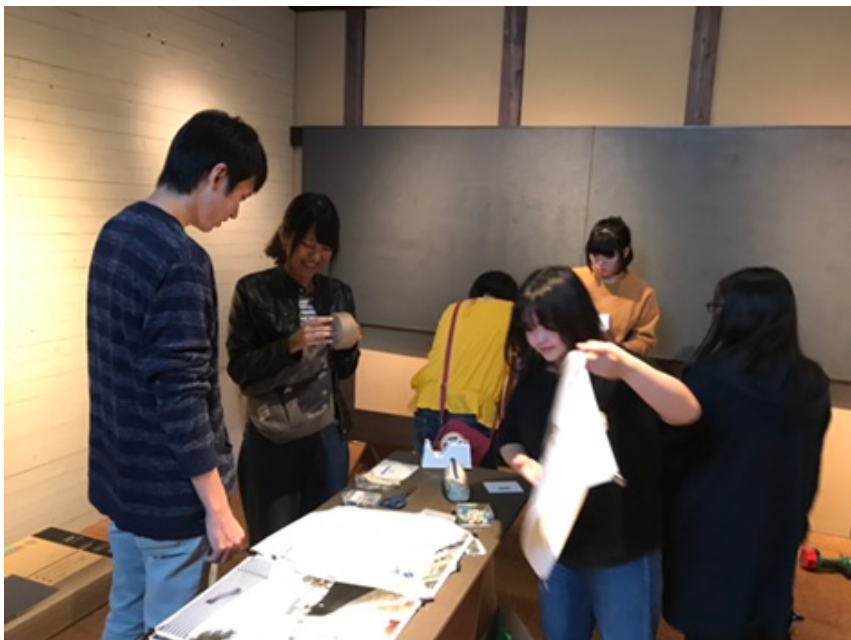




●2018 年 9 月 29 日

鞆の津ミュージアム

メディア・映像学科学生と「鞆の浦 de アート」の作品願入









●2018 年 10 月 12 日

2018 年 10 月 19 日

山田氏（岡山の不動産業で鞆の浦に 2 軒の民家を所有）と面会
鞆の浦 VR プレゼンの打ち合わせ

山田浩徳氏とゲームエンジンで有名な会社に対して鞆の浦 VR の展開の企画を提案
しようと企てていた。

●2018 年 10 月 19 日

工学部建築学科、佐藤教授と佐藤教授のゼミ生と共に、対潮楼下の民家の調査。
前述の山田浩徳氏所有の民家、痛みが酷い







床下には地下室や江戸時代の石組が存在する



山田氏所有のもう一つの民家、江戸時代の塗壁が残るが痛みは酷い









●2018 年 11 月 20 日

授業 CG 制作の鞆の浦写真取材 20 名以上の学生が参加した。



●2018 年 10 月 12 日

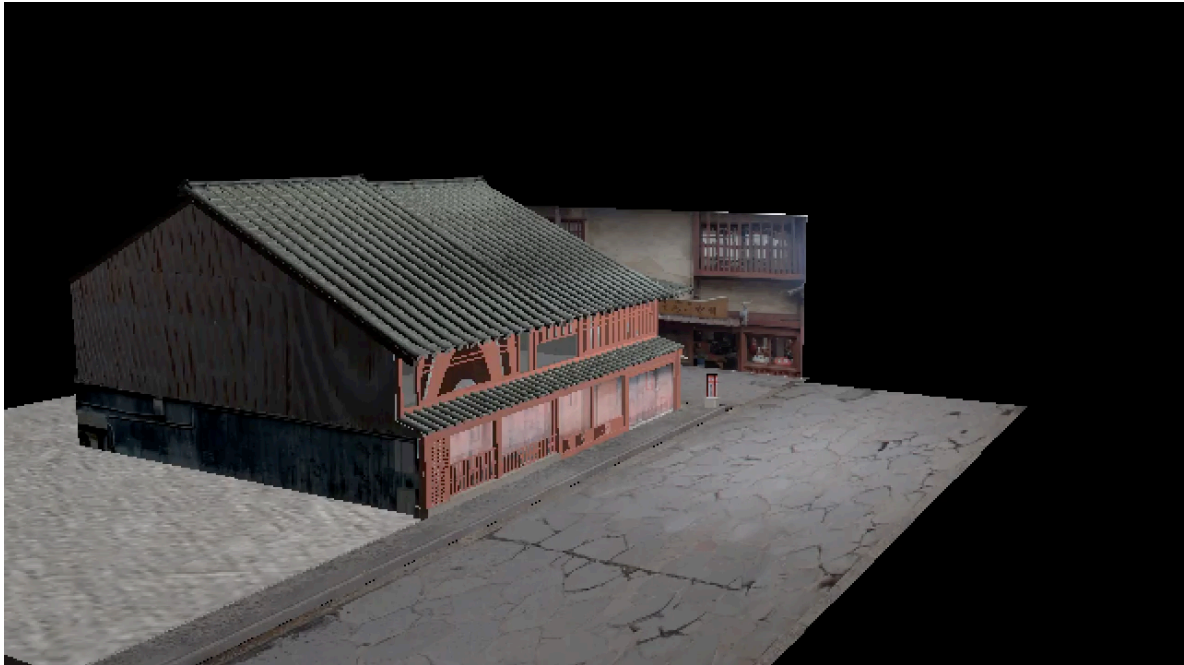
鞆の浦 国重文 太田家住宅 高田清子様 面会 朝宗亭
3 DCG 化への理解が得られた







■3DCG澤村船具店 2018年



雁木を目指すと最初の曲がり角にあるランドマークが「澤村船具店」だ。店主の澤村様に取材の許可をいただき、学生たちをグループに分け、建物の各パーツ（軒、格子、瓦屋根、看板など）をグループごとに担当させ、できたパーツを、渡辺准教授と研究代表とで組み立て3DCGムービーに仕上げた。